

JAEF REPORT

令和5年10月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 令和5年度自動車教育用教材の提供対象校・内容を決定
- ◆ 分解組立式小型EV“PIUS”を用いた特別講習を実施
- ◆ 電動車技術教育用教材 新規設定を検討
- ◆ “JAPAN MOBILITY SHOW 2023”高校生来場促進活動

- ◆ 令和5年度 J A E F 研修会を開催
- ◆ 30都道府県の研修会（58件）に講師を派遣
- ◆ 動画学習サイトに自転車活用推進計画に関する調査報告動画を掲載

令和5年度自動車教育用教材の提供対象校・内容を決定 ……8月1日

技術教育

財団は8月1日に開催した審査委員会(加藤秀次 委員長)にて、令和5年度の技術教育支援事業として、110の高等学校へ自動車教育用教材を提供することを決定した。本年度は、案内方法の見直しや、各県代表校長への個別アプローチなど、従来以上に告知強化に努めた結果、平成20年度の108校を上回る過去最多の提供実績となった。都道府県別では、4都道県で過去最多、3県で過去最多タイであった。

今年度の公募対象は、14都道県(右欄参照)の全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、全国自動車教育研究会に加盟する273校で、6月に公募を行った結果、対象となる全地域から110校の応募があった。審査委員会での選考の結果、全ての応募校に対し、各校の要望に応じた教材を提供することとした。

今回提供教材メニューとして、基礎教育用の視聴覚・模型教材から初級教育用の分解組立用エンジンや工具類、更には中級・上級用の実験実習用機材に至るまで、計28品目を用意した。各校は第1から第3希望までの教材を申請。第1希望として最も多く要望のあった教材は「分解組立用エンジン(汎用126cc)」(設定3コースへの応募が計40校、全体の36.4%)。これに次いだのが、「モーター基礎実験セット(自動車の電気・電子技術)」(計10校、同8.2%)で、同教材を提供開始した平成30年度以降始めて2位に入った。昨今進行する自動車の電動化を踏まえ、各校の電気科・電子科で活用できる教材として告知、応募促進に取り組んだ成果と考えられる。

各校への教材納入は、9月から12月にかけて実施する。また、10月より地域ごとに各都道府県の自動車教育推進協議会の協力を得て、提供校への目録贈呈式ならびに教育懇談会を実施する予定。一部地域では、昨年度参加者より好評を得た自動車販売会社での贈呈式・教育懇談会の開催も予定している。尚、平成3年からの累計提供校数は計2,404校となる。



▲分解組立用汎用エンジン

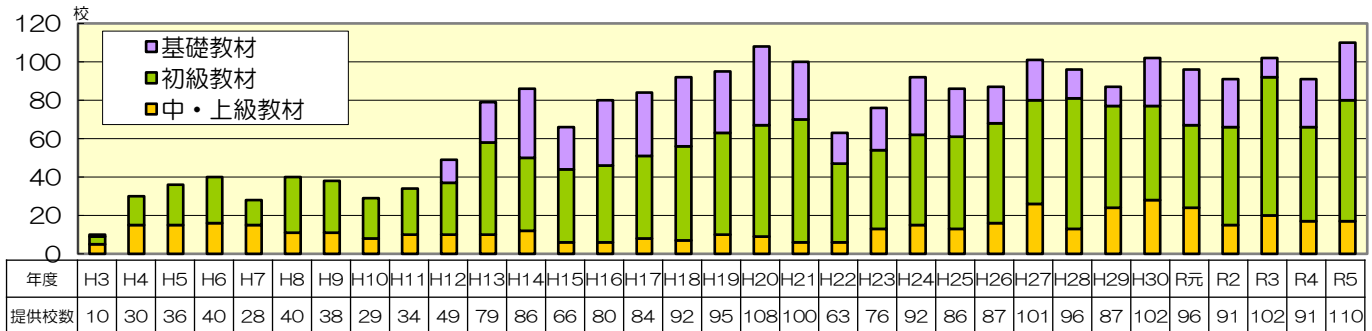


▲モーター基礎実験セット(自動車の電気・電子技術)

【令和5年度公募対象都道県及び応募(=提供)校数】
※公募地域 14都道県：273校

北海道 (16)	栃木県 (7)	埼玉県 (10)
東京都 (18)	千葉県 (3)	神奈川県 (13)
富山県 (4)	石川県 (3)	福井県 (6)
鳥取県 (3)	岡山県 (11)	島根県 (3)
広島県 (3)	山口県 (10)	
合計110校に提供		

【年度別提供校推移】



INFORMATION

- 令和5年度 教材贈呈式を実施 10月~12月
- 25都道府県の研修会（58件）に講師を派遣 10月~12月
- 各部会、委員会を開催 10月下旬~11月上旬
- 令和5年度海外交通事情調査を実施(フランス) 11月上旬

10~12月予定

分解組立式小型EV” PIUS” を用いた特別講習を実施

・・・6～9月

技術教育

財団は、令和3年度から続く重点取組「体験型授業の充実」の施策として、分解組立式小型電気自動車“PIUS（ピウス）”を用いた特別講習を、下表の通り9月までに計7回開催した。今年度も昨年度と同様に計10回の開催を計画している。

講師役を財団職員が務める当講習は、開始以来受講校よりたいへん高い評価を得ている。また、本年度は募集開始1か月で年間実施計画回数を上回る申し込みがあるなど、認知度に加え再受講に対する意向も高まりつつある。今後、当講習の更なる有効活用の可能性について検討を進めていく。

【PIUS特別講習実施実績（6～9月）】

No.	実施日	地域	学校名	参加者	
				所属	人数
1	6月24日	岐阜	県立岐阜工業高等学校	航空機械工学科 機械研究部	10
2	7月13日	新潟	県立佐渡総合高等学校	環境工学系列 3年生	18
3	7月25日	宮崎	県立小林秀峰高等学校	機械科 機械研究部	9
4	7月27日	鹿児島	県立鹿屋工業高等学校	機械科 1～3年生	19
5	8月17日	愛知	愛知工業大学名電高等学校	専門学科 1～3年生	8
6	8月22日	新潟	県立県央工業高等学校	機械加工科 3年生	4
7	9月16日	愛知	名古屋工業高等学校	機械科1, 2年生	9

【講習の様子】



▲岐阜県立岐阜工業高等学校



▲新潟県立佐渡総合高等学校

電動車技術教育用教材 新規設定を検討

・・・8月

技術教育

財団は、令和6年度の自動車技術教育用教材として、電動車技術教育用教材の新規設定について検討を開始した。機械・自動車系に留まらず、電気系学科の生徒まで幅広い活用が見込まれる、電気自動車キットをその候補としている。モーター、インバーターなどから構成され、実践的なモーター制御やクルマの駆動制御の基本を学ぶことが可能。

教材としての有用性を検証すべく、8月23日に東京都立総合工科高等学校にて同教材の特別講習会を開催。複数の高校の先生と生徒合わせて約30名が参加した講習会では、講演と実技を通じて教材としてのポテンシャルを確認していただいた。参加者から多数の高い評価を得たこともあり、当日いただいた意見・要望等を踏まえ、導入に向けた検討を更に進めていく。



▲新規教材として設定を検討している電気自動車キット

▲東京都立総合工科高等学校での特別講習の様子

“JAPAN MOBILITY SHOW 2023” 高校生来場促進活動 ……7～9月

研修

財団は今秋の“JAPAN MOBILITY SHOW 2023”開催にあたり、クルマおよび将来のモビリティ社会に対する関心高揚に加え、同ショーへの来場を促進すべく、高校生を対象とした見学会を企画し、全国の高等学校に対して募集を行った。

財団では、7月下旬の当見学会案内文書の送付をはじめ、先生方向け研修会「JAEF研修会」や日頃の各校とのコミュニケーション活動などにおいて、精力的に告知、応募促進を図った。その結果、9月半ばの募集期限までに計47校、6,024名分（引率の教員数を含む）の申し込みがあった。

尚、当見学会の参加者には、同ショー招待券およびオリジナルエコバックを贈呈することとしている。

本活動は、予算制約により当初事業計画になかったものだが、同ショー主催者である（一社）日本自動車工業会より、招待券およびオリジナルエコバックをご提供いただくことで実現したものである。

<募集概要>

期間	7月25日（火）～9月15日（金）
対象	全国高等学校の教員・生徒
申込単位	学校、学年クラス単位、または部活動やクラブ単位の団体
参加費用	無料 教員：招待券を提供 生徒：学生証提示により無料
参加特典	JAPAN MOBILITY SHOW 2023 オリジナルエコバック

<結果（募集実績）>

申込校数	47校
参加者数	6,024名

令和5年度 JA E F 研修会を開催

財団は、全国の高等学校の先生方を対象としたJAEF研修会を計3回開催した。第1回は「自動運転」、第2回は「高度運転支援技術」、そして第3回は「電動キックボード」をテーマに実施。各回の実施内容、参加者の反響は以下の通り。

<第1回：「自動運転」>

実施日	7月26日（水）
場所	日本自動車研究所（茨城県つくば市／城里町）
参加者	23名
実施内容	①講演：「『自動運転技術』研究開発の現状と実用化への課題について」 講師：（一財）日本自動車研究所 自動走行研究部 研究主幹 内田 信行 氏 講演内容）自動運転の現状や社会実装を加速するための研究開発について解説 ②見学・体験：研究試験設備・テストコース
参加者の声	「日頃の研究が社会に貢献していることを理解できた」他

<第2回：「高度運転支援技術」>

実施日	7月31日（月）
場所	マツダ（広島県府中町）
参加者	29名
実施内容	①講演：「人間中心の高度運転支援技術Mazda Co-Pilot Conceptについて」 講師：マツダ（株） R&D戦略企画本部 開発戦略企画部 主査 柘岡 孝宏 氏 講演内容）人間中心の安全技術や次世代高度運転支援技術の研究開発について解説 ②見学：マツダミュージアム・自動車生産工場
参加者の声	「人間に寄り添ったものづくりの哲学に大変感銘を受けた」他

……7月（第1回、第2回）、8月（第3回）

研修

<第3回：「電動キックボード」>

実施日	8月9日（水）
場所	日本自動車会館（東京都港区）
参加者	38名
実施内容	①講演：「高校生から乗れる電動キックボードの安全な普及について」 講師：（株）Luup 広報・渉外部長 池上 翔 氏 ／ 広報・渉外部 渉外担当 國井 さくら 氏 講演内容）世界の市場と法改正の背景や改正道路交通法の内容について解説 ②実習・体験：Luupスタッフによる乗車指導・公道試乗
参加者の声	「生徒に指導すべきルールについてポイントが確認できた」他



▲第1回研修会が行われた日本自動車研究所 城里テストセンター内 高速周回路見学の様子

各回とも参加者の声にあるように、いずれも大変高い評価であった。

本研修会開催にあたりご協力いただいた団体、各企業、講師の皆様には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

30都道府県の研修会(58件)に講師を派遣

・・・7～9月

研修

令和5年度7～9月の講師派遣実績は、開催件数58件（前年同期差+15件）、キャンセルは3件（同▲9件）であった。また参加者は計12,806名（同+3,422名）と大幅に増加したものの、1件あたりでは221名で前年同期並み（同+3名）であった。新型コロナ等感染防止の一環として、開催規模を抑制する傾向が続いている。

全58件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 交通安全	45	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
2) 自動車技術	13	主に工業系の生徒

尚、研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1) 交通安全：計45件

ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	34
夜間の交通安全対策	5
交通事故を起こして問われる責任と損害保険の役割	5
「自転車」を取り巻くリスクと損害保険の役割	1

「交通安全」分野45件のうち、リモート研修は14件、同比率31%であった。感染状況の影響を受けにくく、夏季の熱中症対策としても有効なりモート研修が引き続き活用されている。



▲茨城県立麻生高等学校・校外リモートでの講師派遣（交通安全）



▲兵庫県立明石南高等学校・対面での講師派遣（交通安全）

2) 自動車技術：計13件

最新技術：生徒対象	12
整備技術：教員対象	1

実施校からは、「この出前授業では実際に体験等させてもらったので、生徒たちも興味・関心を持って積極的に参加できていた」「生徒の進路指導にも大いに役立った」など、数多くの好意的な評価をいただいた。



▲北海道富良野緑峰高等学校での講師派遣（自動車技術）

講師については、全58件を地元の自動車教育推進協議会メンバーにご担当いただいた。

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。

動画学習サイトに自転車活用推進計画に関する調査報告動画を掲載

・・・7月

普及啓発

財団は、現在国及び自治体に取り組んでいる自転車活用推進計画に関する調査報告動画『どこまで実現する？自転車を利用しやすい環境づくり』を制作。動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」内で、先生方が授業で活用できるような話題、生徒が関心を抱けるような話題を取り上げる「クルマ何でも情報館」にて公開した。

自転車活用推進計画では、環境保護や健康促進、交通事故防止といった社会的課題の解決のために、これまでの自動車依存から脱却することを目指している。

この動画では、国の方針や今回取材を行った自治体（東京都、長崎県）の取り組みなどを踏まえ、本当に自転車が利用しやすい環境が整い、利用者が増えていくのか、そのために必要なことは何かを考える内容としている。

フルスケール版の動画に加え、全体を構成する4つの章を分割した動画も同時に公開した。

◆ 『どこまで実現する？ 自転車を利用しやすい環境づくり』〈7/21公開〉



※当コンテンツは以下URLに掲載

<http://www.jaef.or.jp/6-kurumajuku/johokan/latest-news/index.htm#ch14>